



1. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 公立病院としての役割の発揮と責務の遂行

(1) 救急医療への対応・・・**4**

- ・救急医療、集中治療の専門医を確保し、通常の救急外来の診療体制を拡充させるとともに、新型コロナウイルス感染症が疑われる患者、感染患者の合併疾患にも対応した。
- ・不応率は、コロナ禍により圏域外を含む救急要請が増加したことに伴い、目標達成にならなかったが、救急車受入数や、地域救急貢献率は、コロナ禍以前より増加した。
- ・兵庫県より救急医療に功績のあった医療機関として「救急医療・救急業務功労者」を受賞した。

(2) 災害時における機能の強化・・・**4**

- ・災害対策委員会を中心に火災時の避難訓練、消火器を用いた消火訓練、備蓄食料の運び出し訓練など、実践的な訓練活動を実施し有事に備えた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第6波)時に、全国自治体病院協議会の要請に応じ、看護師2名を沖縄県立病院へ派遣した。

(3) 感染症対策の強化・・・**5**

- ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、最大52床の入院受入病床を確保し、小児や妊婦、透析患者など他の医療機関で対応が困難な患者の受入を行った。また、外来においては、発熱等診療・検査医療機関としての機能を維持した。更には、加古川市が推進するワクチン接種事業に医療従事者を派遣した。

(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮・・・**4**

- ・地域連携部門では、治療計画(パス)の説明を行い、患者の療養生活への理解を深める支援を行い、院内の各種専門チームや、地域の医療機関とも連携を密にし、入院前から退院後の生活やかかりつけ医へのスムーズな移行を実現した。

2 高度・専門医療の提供

(1) がん医療の充実・・・**4**

- ・国指定の地域がん診療連携拠点病院として、東播磨地域のがん治療の中核として高度かつ低侵襲な治療を推進し、がん相談の領域では、新たに認定がん相談センターの指定を受け、また、地域医療機関と連携したがん治療のセミナーや研究会を開催するなど精力的に活動を行い、2022 年度より地域がん診療連携拠点病院(高度型)の認定を受けた。
- ・肺がんのロボット支援手術を10月から開始し、13例の手術を行った。

(2) 循環器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・24時間365日体制で急性期循環器症例の受入や、脳卒中の救急医療体制の確立へ向けた取り組み、MitraClipの新規導入に向けたトレーニングの開始など低侵襲治療の拡大、末期心不全患者への緩和ケアの導入、心不全地域連携パスによる継続的なフォローの推進など地域の心臓血管センターとしての役割を果たした。

(3) 消化器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・総合的な診療体制により、出血を伴う消化管急性疾患や、胆管炎、胆道閉塞などの急性疾患に対する緊急内視鏡治療に対応し、地域の救急医療をカバーしている。
- ・消化器センターでは、外科と内科の垣根を取り払い、腹腔鏡・内視鏡を用いた低侵襲治療、薬物療法、化学療法、放射線療法から緩和ケアまでを統合した治療体制で治療を推進した。

(4) 周産期医療の充実・・・**5**

- ・地域周産期母子医療センターとして地域の三次救急の役割を担い、24時間365日ハイリスク妊産婦をはじめ緊急性の高い母体、新生児救急症例の受入れを行ったほか、圏域外からの新型コロナウイルス感染症母体受入要請にも対応した。

(5) 小児医療の充実・・・**4**

- ・小児地域医療センターとして、24時間365日の救急受入体制を堅持し、従来の緊急性の高い疾患に加えて、新型コロナウイルス感染症患児の治療を行った。

(6) センター診療機能の更なる充実・・・**3**

- ・圏域の医療需要や今後の患者動向予測など、情報収集を行った。いくつかの領域について、診療科との意見交換を行った

(7) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・**4**

- ・集中治療病棟では早期離床のためのリハビリテーションを行ったほか、新たに専任の管理栄養士を配置し、集中治療の初期段階から栄養介入を行い、退院後のQOL向上に係る体制を強化した。(総合診療体制の強化)
- ・血管造影とCT撮影を同時にできるハイブリッド型IVR-CTを導入し、正確で安全な治療環境を整備した。研究分野では、科学研究費助成事業に応募し、機構としては初めて1事業採択された。(高度・専門医療の提供)
- ・従来のクリニカルパスに加え、新型コロナウイルス感染症の診療を安全かつ効率的に行うために、感染症パス、感染症妊婦パスを作成するなど臨機応変に対応した。8種類の看護外来を展開し、医師や多職種と連携し、在宅療養への支援を行った。(チーム医療の推進)

(8) 高度・専門医療を提供する人材の確保と育成・・・**4**

- ・幅広い診療科目を有する急性期総合病院として、様々な症例の経験や、専門的なトレーニング機器を用いたシミュレーション、離島を含めた地域医療研修など、様々な研修プログラムを用意し、学べる病院としての機能を発揮した。
- ・職員の高度な技術習得の意思を支援するため、新たに職員を大学院へ派遣する仕組みを整備した。
- ・看護職員の育成では、高度な医療に対応するための知識・技術習得に加え、倫理観をもって診療にあたることを目的とし、クリニカルラダーとマネジメントラダー制度を導入している。

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全管理及び感染対策の徹底・・・**4**

- ・オカレンス報告制度を導入し、典型的に医療の安全を脅かす確率が高い事象を報告することとし、徐々に報告件数が上がってきている。また、各診療科の責任者が新規医療技術・高難度手技に伴うリスクの点検を行い、監督・指導できる仕組みを構築した。

(2) 患者とともに進める医療の推進とサービスの充実・・・**4**

- ・集中治療領域の重症患者の家族に寄り添い、担当医療者との間に入り、患者の容態や治療方針への理解など、必要な支援を担当する「入院時重症患者対応メディエーター」の養成に着手した。

2. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自律性・機動性・透明性の高い組織運営

(1) 効率的・効果的な組織運営・・・**3**

- ・部門別の稼働状況や重要な情報を共有する運営協議会の月次開催を継続したほか、事務局内での情報共有の場を新たに設け、組織横断的な対応力を強化した

(2) コンプライアンスの徹底・・・**3**

- ・「風通しの良い職場づくり」を達成するために、アクションチェックリストを導入し、各職場で身近な取組を通して、協力や連携が進められるよう自発的な活動を推進した。全職員対象にパワハラに関する調査を実施し、職員の意識や実態の把握を行った。

2 働きやすく、やりがいのある職場づくり

(1) やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実・・・**4**

- ・システミックコーチングを導入して3年目となり、各職場においてコミュニケーションを意識する風土が浸透しつつある。また、半期ごとの所属長による評価面談の機会を通して、職員が設定した目標とその達成状況を振り返ることで、双方向の人事評価が機能し、成果の承認や課題の認識によって職員自身の成長を促した。

(2) 働き方改革の推進・・・**4**

- ・労働および労働以外の時間区分の明確化、各種カンファレンスや委員会活動に対するフレキシブルな勤務時間計画、チーム担当医制の推進による休日出勤の削減等の取組によって、各診療科が計画的に労働時間を管理できる体制を整備した。

3. 財務内容の改善に関する事項

1 経営機能の強化・・・**5**

- ・コロナ患者の受入病床を県のフェーズに合わせて臨機に調整し、通常の医療への影響を適宜予測するなど柔軟なベッドコントロールを実行することで、コロナ禍において医療と経営の両立を図り、経営の安定を実現した。
- ・DPC特定病院群を維持するための目標を設定し、月次で診療科ごとにDPC分析を行い、クリニカルパスの見直しにより在院日数を適正化し、診療の効率性を向上させた。

2 収益の確保及び費用の最適化・・・**4**

- ・令和4年度診療報酬改定に係る影響調査と対策を行い、早期の算定実現に向けて、医療職と事務職協働にて体制整備を進めた。
- ・診療報酬の査定減点の詳細な分析を行い、委員会で検討した。内容は各診療科にフィードバックし、要注意項目に対して医師と事務が協力して対策を行った。

4. その他業務運営に関する重要事項

1 地域社会への貢献

(1) 地域社会との協働の推進・・・**3**

- ・近隣の保育所の集団感染が発生した際に、発熱外来にて100人規模のPCR検査を実施した。
- ・認知症疾患医療センター指定病院として、東播認知症教室の開催に協力した。

(2) 市施策への協力・・・**4**

- ・加古川市が推進する市民へのワクチン接種事業に協力し、スタッフの派遣を行った。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指 標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	7,200	7,791	108.2%
救急車受入要請に対する不応率	10.0	11.7	85.5%
人間ドック受診者数	2,600	2,673	102.8%
紹介率	77.0	65.5	85.1%
逆紹介率	95.0	93.9	98.8%
がん登録件数	3,150	2,232	70.9%
悪性腫瘍手術件数	1,700	1,669	98.2%
放射線治療計画件数	380	442	116.3%
化学療法件数	11,000	12,133	110.3%
緩和ケアチーム介入件数	180	164	91.1%
冠動脈インターベンション件数	500	535	107.0%
アブレーション件数	310	289	93.2%
デバイス治療件数	220	206	93.6%
末梢血管インターベンション件数	230	151	65.7%
開心術・心血管手術件数	215	284	132.1%
心臓リハビリテーション単位数	30,000	26,636	88.8%
上部内視鏡検査件数	8,500	9,045	106.4%
下部内視鏡検査件数	4,100	4,247	103.6%
内視鏡的粘膜切除術(EMR)件数	650	565	86.9%
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数	150	141	94.0%
分娩件数	700	781	111.6%
ハイリスク分娩件数	140	154	110.0%
小児救急搬送受入件数	1,200	1,496	124.7%
手術件数	8,600	8,370	97.3%
MR I 件数	22,500	23,319	103.6%
CT 件数	55,400	66,325	119.7%
PET-CT 件数	2,180	2,179	100.0%
クリニカルパス使用率	65.0	64.7	99.5%
医師数(2021 年度専門医研修医及び初期臨床研修医を除く。)	173	173	100.0%
専門医研修医数(専攻医)	60	60	100.0%
初期臨床研修医数	30	30	100.0%
患者満足度/入院	95.0	94.2	99.2%
患者満足度/外来	85.0	89.4	105.2%
職員満足度(%)	70.0	75.6	108.0%
累積経常利益(百万円)	10,025	12,979	129.5%
経常収支比率	100.8	111.9	111.0%
医業収支比率	99.5	104.6	105.1%
医業収益(百万円)	24,497	26,292	107.3%
入院収益(百万円)	16,359	17,704	108.2%
外来収益(百万円)	7,538	7,933	105.2%
入院診療単価(円)	83,000	90,746	109.3%
外来診療単価(円)	22,000	22,251	101.1%
1日あたり入院患者数	540	534	98.9%
1日あたり外来患者数	1,410	1,473	104.5%
病床稼働率	90.0	89.1	99.0%
給与費比率/対医業収益	49.6	46.3	107.1%
診療材料費比率	14.7	15.4	95.5%
医薬品費比率	14.5	13.5	107.4%
経費比率/対医業収益	13.3	13.1	101.5%